

家畜伝染病予防法第40条又は第45条の検査は保留して行い、同法施行規則第50条により、動物の種類ごとに保留期間が定められている。保留期間は検査の結果により延長される場合がある。また、輸出の場合は相手国側の条件により定められた期間保留される。

家畜伝染病予防法第46条第1項の規定に基づき、動物を検査した結果、家畜伝染病又は届出伝染病の病原体により汚染している、又は汚染しているおそれがあると認められた場合、動物検疫所長は家畜防疫官に処置を行わせることができる（検査に基づく処置）。令和4年に輸出入係留期間中に検査に基づく処置を行ったものは以下のとおりである。

区分	輸出入の別	動物種	摘発疾病名	用途	仕出地域	総計	転 帰					隔離・係留延長の措置	検疫場所
							死亡	殺処分 <sup>※1</sup>	返送	再検査後陰性 <sup>※2</sup>	回復 <sup>※3</sup>		
家畜伝染病	入	牛	ヨーネ病	肥育用	オーストラリア	3		3				3	新門司
届出伝染病	入	馬	馬インフルエンザ	肥育用	カナダ	100					100	100	新門司
	入	馬	馬インフルエンザ	肥育用	カナダ	81	1				80	81	太刀浦
	入	豚	豚繁殖・呼吸障害症候群	繁殖用	カナダ	1		1				1	苅藻

注) ※1 殺処分には、輸入者の意向によるものも含む。  
 ※2 再検査後陰性とは、摘発疾病を疑われたが保留を延長後再検査を行い、感染をひろげるおそれがないことを確認し解放されたもの。  
 ※3 回復とは、検査を行い陽性であったが保留延長期間中に回復し、伝染性疾病をひろげるおそれがないことを確認し解放されたもの。